

# ストーリーテリングの計量テキスト分析による現代人の深層

## 心理研究

西村 健

### Abstract

This paper examines the causes of psychic experiences. First, psychic stories are extracted from the Internet in text format. Next, the text is analyzed using linguistic analysis software. Then, common patterns of psychic stories will be guessed. Finally, using the literature as a reference, I consider why citizens see ghosts and what psychology is hidden in them.

### 1. はじめに

科学技術やグローバル化が進展し、非科学的な事象が敬遠される中であつても、霊に関するストーリーは今でも一部の市民に信じ続けられ、インターネットの世界で広がりを見せている。本調査では、インターネット上に流布する心霊に関するストーリーを計量テキスト分析し、その後、民俗学の観点から整理することで現代人の深層心理を明らかにしていきたいと考えている。また、今回は、東京(都市)と青森(地方)の霊に関するストーリーを比較することにより、都市と地方に住む人々の深層心理の違いについても論じていきたい。

### 2. 研究方法

調査対象は、インターネット検索サイトで上位に表示され霊に関する多くのストーリーが格納されている「恐虫リリー」、「みんなの怖い話 みんな怖」、「奇々怪々怖い話」から東京で発生した霊に関するストーリー289話、青森で発生した霊に関するストーリー28話とした。なお、東京、青森とも、別の地域に居住する人から聞いた話や、東京在住者が田舎で体験した話は、それぞれのカテゴリーから除外している。また、東京のベッタウンで発生した話については東京で発生したものとして分析の対象としている。さらに、霊に関するストーリーのサイトには占い師や祈祷師などによるステルスマーケティング要素が強い話も投稿されており、こうした話については調査対象からは除外している。

テキストの調査方法としては、立命館大学産業社会学部現代社会学科の樋口耕一教授が計量テキスト分析のために開発した KH コーダーというソフトを用いている。また、テキスト抽出に際しては、すべてを抽出してしまうと、サイトのタイトルが繰り返し抽出され分析結果に偏りが生じたり、添付されている写真の

属性テキストも収集されてしまうため、一つ一つの話からそうした用語を取り除く作業も実施している。

最後に頻出語と共起分析により得られた傾向に基づき、霊に関するストーリーを再分類することで東京と青森に住む人が何を怖がりその深層心理に何があるのかについての考察を進めている。

### 3. 結果

#### 3.1 東京の霊に関するストーリーの頻出語

東京の霊に関するストーリーの中で現れる名詞には、「場」を示す用語、具体的には「部屋」、「アパート」、「学校」、「場所」、「ドア」、「学校」、「大学」、「物件」、「電車」、「病院」、「会社」などの用語が頻出していることが分かった。また、東京の霊に関するストーリーの中で頻出した「事故物件」という用語についても KH コーダーの機能を使い強制抽出した結果、「病院」という用語と同数存在することが確認されている。また、頻出する「人間関係」を現す名詞には、「女性」、「友人」、「子供」、「男性」、「心霊」、「幽霊」、「女の子」、「先輩」が上位に位置づけられることが確認された。

表 1. 東京の霊に関するストーリーの頻出語

名詞	サ変名詞	形容動詞	固有名詞	組織名	人名	地名	ナイ形容	
部屋	401 話	452 不思議	98 リ	19 パ	10 A子	29 東京	262 問題	31
自分	198 体験	203 嫌	68 シュン	16 靖国神社	6 宮野	27 八王子	31 仕方	25
女性	196 仕事	130 確か	53 スマ	15 ゼット	4 ミヨ	24 新宿	21 間違	21
友人	187 電話	129 急	51 昭和	9 日航	3 寺島	13 日本	21 しようが	8
子供	150 恐怖	117 普通	41 奥多摩湖	8 豊島園	3 鈴木	13 日	13 申し訳	8
男性	137 一緒	102 好き	36 ナン	6 毎日	3 上田	12 千葉	11 違い	6
アパート	133 作業	71 有名	35 寛永寺	6 カルピス	2 大家	12 中	11 頼り	4
場所	129 生活	69 大丈夫	32 カゴ	5 コロナ	2 速水	9 朝	10 だらし	2
心霊	118 連絡	57 変	30 トー	5 ジーナ	2 有田	9 埼玉	9 とんでも	2
写真	102 確認	54 静か	29 狭山湖	5 東京電力	2 りえ	8 鶯谷	9 限り	2
ドア	101 関係	46 妙	27 山手線	5 仏教大学	2 ガリ	8 ポー	8 さりげ	1
学校	98 記憶	46 不気味	26 ソリ	4 どん	1 ジョン	8 原宿	8 たわい	1
幽霊	94 一人暮らし	45 正直	24 タイガー	4 ビン	1 正夫	8 渋谷	8 他愛	1
大学	92 自殺	45 不安	24 青山一丁目	4 ロ	1 西野	8 染	8	
物件	84 引っ越し	44 無事	24 大正	4 京五	1 北条	8 バレ	7	
気持ち	77 携帯	44 顔面	23 セイ	3 自社	1 しおり	7 歌舞伎町	7	
女の子	76 噂	41 勝手	22 ソ	3 水道局	1 氏照	7 江戸	7	
家族	75 存在	38 元氣	21 井の頭公園	3 西産園	1 てる	6 大阪	7	
電車	75 帰宅	35 明らか	20 銀座線	3 浅草寺	1 大島	6 池袋	7	
感じ	72 心配	35 完全	19 三浦半島	3 朝日	1 たけし	5 墨田	7	
病院	72 経験	34 可能	18 増上寺	3 東大	1 トン	5 北海道	6	
会社	70 説明	33 必要	18 X	2 東武	1 ロー	5 奥多摩	5	
先輩	70 安心	31 奇妙	17 ミスコン	2 東北大	1 久保田	5 葛飾	5	
事故	69 卒業	28 必死	17 花やしき	2 日経	1 新井	5 江東	5	
現象	67 就職	25 異常	16 狭山丘陵	2 日赤	1 濱	5 上野	5	

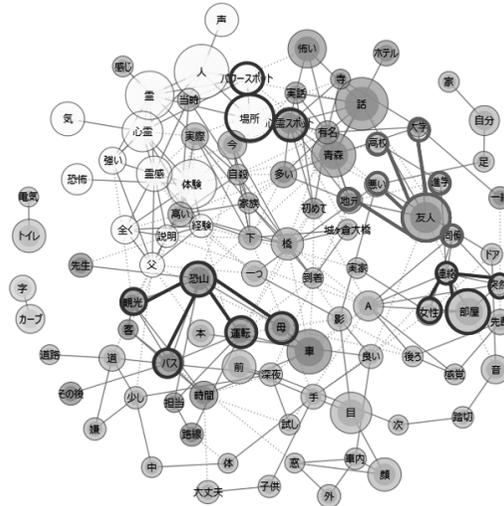
#### 3.2 青森の霊に関するストーリーの頻出語

青森の霊に関するストーリーの中で現れる名詞には、「場」を示す「部屋」、「恐山」、「トイレ」、「心霊スポット」、「パワースポット」、「ホテル」などが頻出していることを確認した。また、頻出する「人間関係」を現す名詞には、「友人」、「女性」、「先輩」、「男性」、「先生」、「子供」、「祖母」が上位に位置づけられることが確認された。



という一群を確認した。また「人間関係」を指し示す一群としては、「友人」と「地元」と「悪い」と「高校」と「大学」と「同僚」の一群を確認した。

図 2. 東京の霊に関するストーリーの共起グラフ



3.5 「場」と「人間関係」に注目したストーリーの再分類

東京、青森の頻出語や共起分析で注目されたのはいずれも、「場」と「人間関係」の用語が頻出していること、ならびに共起グラフで場や人間関係性を示す一群が散見されたことであった。この「場」と「人間関係」というキーワードを元に、一つ一つの霊に関するストーリーが、どのような「場」で発生しているのか、そこにはどのような「人間関係」でストーリーが構成されているのか、全 317 話を再分類したのが以下の表である。

表 3. 東京と青森の霊に関するストーリーの場と対象

東京		東京		青森		青森	
場	話の数	怖い対象	話の数	場	話の数	対象	話の数
借家	54	女性	46	心霊スポット	17	霊	10
家	26	実在の人	27	部屋	6	女性	8
宗教施設	12	男性	23	トイレ	2	男性	2
学校	12	子供	21	ホテル	1	気配	2
病院	8	人	16	道路	1	動物	2
会社	7	おばあさん	13	老人ホーム	1	おばあさん	1
街	7	不明	12	古本屋	1	おじいさん	1
公園	6	霊	11				
廃墟	6	動物	5				
ホテル	5	生霊	4				

上記のとおり、東京での心霊体験は「借家」、その中には「事故物件」もくしくは「家」を中心として発生しているのに対し、青森での心霊体験は「心霊

スポット」で多くが発生していることを確認した。また東京では、怖さの対象が「女性」が筆頭に挙げられ、次に「実在の人」が挙げられている。ここで実在の人と分類したのは、ストーカーや危険な隣人、街中の暴力的な人物を指している。一方、青森では怖さの対象は「霊」そのものであることが多く、その次に「女性」が現れることが確認された。

#### 4. 考察

まず、心霊体験が語られる「場」の考察からはじめたい。東京では「借家」が心霊体験の中心となっており、若者が一人暮らしを行う中で孤独を感じ、そこで霊に関する多くの体験が語られている。さらに、今回の調査で頻出した「事故物件」という用語から、都市住民は自分が住む借家において変死や孤独死があったのではないかとこの恐れを感じ、それが心霊体験を増幅していると考えられる。この考察を補うため、民俗学で、こうした現象がどのように分析されているかについて触れていきたい。

柳田國男は『都市と農村』の中で「明治以降、日本の社会の産業構造の変化により村から街への大量の人口移動を生じ、村に生まれた次男三男や娘たちが都会に移り住み工場や会社に勤め結婚して居を構えることが一般化し、このような都市に住む人々は不安を覚えた」と指摘し、近代化が進む中での都市住民の不安や孤独について指摘している。また、山本質素は『社会の民俗』の中で「高度成長期以降も日本各地に過疎と過密の不均衡を生みながら都市への人口移動が加速され、田舎から都市へ移動してきた人々の中から不安が消えるどころかさらに大きなイメージとなって都市民の心理に影響を与えている」と指摘し、共同体から切り離された都市住民の不安が彼らの心理に影響を与えていると述べている。あわせて山本は「都市の怪奇譚の背景には現在社会におけるストレスが関わっていることは確かである」と述べ、共同体から切り離された都市住民のストレスと怪奇譚のつながりについて言及している。今回の計量テキスト分析においては都会の心霊に関するストーリーの中に、一人暮らしの人間が概ね居住するであろう「借家」に関する用語が頻出していることを踏まえれば、都市住民は、一人暮らしを営む「借家」や「事故物件」での生活に死や穢れを感じ、そうした不安に都会でのストレスが加わり、それが心霊現象に結びついているのではないかと考えられる。また、安永寿延は『怪異の民俗学』の中で幽霊を「死者が不本意に生を奪われ、よみがえる可能性を断たれながら、しかも死者の世界にも定住の場を持ちえないままに此岸と彼岸の境界をも重力的にさまよう存在である」と定義している。さらに安永は「幽霊を幽界や明界両界の境界的存在で、出現そのものが生と死の二つの世界に対する呪いの表明である」と述べている。筆者は都市住民が「借家」や「事故物件」で遭遇する霊は、自分がまさに生活を営む場で非業の死を遂げた他者の死霊が、幽界や明界両界の境界的存在である幽霊として現れている可能性が高いと考えている。

東京とは対照的に青森での心霊体験は、自分の住む家よりも「心霊スポッ

ト」でその多くが体感されている。これは、青森は東京に比べると若者が共同体から切り離されておらず、孤独感を感じストレスや不安を一人で抱えている人間の割合が都市住民に比べ少ないことを示しているのではないかと考えている。青森に限らず地方においても都市化が進行しているものの、祖父母、父母、親類が近傍に住まい、昔ながらの伝統的共同体の名残が存在している。つまり、地方は都会に比べ先祖との断絶の度合いが薄く、いまだに地方在住者は地域社会や共同体に包接された存在であり、怨霊は自分が住まう場所に現れるものではなく、自分の生活領域の外部に存在していると考えられる。こうした中、地方の若者は、幽界や明界両界の境界的存在である幽霊を怖いもの見たさ、具体的にはレジャーの一環として受け止めているのではないかと考えている。

次に、心霊体験が語られる「人間関係」について考察する。この点については東京も青森も共通して「女性」が心霊体験の中心となっている。東京に関しては、女性にまつわる話が男性の2倍であり、青森についても男性の4倍となっている。また、東京の場合、男性とほぼ同数で「子供」が心霊体験の対象として語られている。成清弘和は『女性と穢れの歴史』の中で「女性による出産という生理現象はなんといっても生死の境界に存在し、この境界性というのはケガレの一般的属性としてかなり普遍的に認められる」と述べ、女性の位置づけが男性に比べ霊界に近い存在であると指摘している。ジェンダーの平等がSDGsの目標にも掲げられる現代では決して受け入れられない概念であるが、古代から戦後まで我が国の国民の女性感にはこうした考え方が根付いていたのも事実である。また、前述の安永は「生死の境界、つまり幽霊を幽界や明界両界の境界的存在にこそ、幽霊が存在する」と指摘している。つまり、我々は出産を行う女性や生後間もない子供を生死の境界に位置する存在として深層心理で認識し、それが霊に女性や子供が多いことの原因ではないかと考えている。

本研究では、東京と青森の怖い話を計量テキスト分析し、その比較を行うことで、民俗学上、どのような背景があるのかについて論じてきた。特徴的な点は、東京は怖い話の「場」が「借家」を中心にして語られ、青森では「心霊スポット」を中心にして語られているということである。これは都市住民の「借家」に対する恐怖感や都会のストレスが怖い話に投影されていることが原因だと考えている。一方、東京も青森も怖い話の対象は「女性」や「子供」であることが計量テキスト分析で判明している。民俗学においては女性や子供を生死の領域の存在として認識するのが一般的であり、インターネットが普及し、SNSで稠密な人間関係が構築されている現在においても、こうした深層心理は我々の深層心理に根付き、それが心霊のストーリーのみならず表層上の多くの社会現象に多くの影響を与えているのではないかと考えている。

今回、考察を行ったのは心霊というオカルトの分野であるが、筆者は多くの科学分野について一般市民がインターネットで語る論評の中に、古代から現在にまで根付いている民俗学に関連した深層心理が何らかの影響を及ぼしているのではないかと考えている。今後、計量テキスト分析を通じ、そのような社会

現象の考察を行っていきたいと考えている。

#### 参考文献

- 樋口耕一(2020).『社会調査のための計量テキスト分析 第2版』ナカニシヤ出版
- 柳田國男(1929).『都市と農村』岩波文庫
- 山本質素(1997).『日本の民俗学 3 社会の民俗 都市と都市化』雄山閣出版
- 安永寿延(2001).『怪異の民俗学 幽霊 幽霊、幽霊の出現の意味と構造』河出書房
- 成清弘和(2003).『女性と穢れの歴史』塙書房